

持ち家を所有されている方のみ

X 空き家について

～空き家について～(問 55～問 56)

住宅に関する心配事は、「住宅の相続に関すること」が31.9%、「空き家または一定期間空き家状態となった場合の管理」が29.7%と高く、相続、空き家の管理方法について心配する回答が多い傾向がみられた。

住宅の引継ぎ手は、「家族や親族が引き継ぐ予定」が43.1%と最も高く、空き家の管理についても「自分や親族が管理する予定」が47.1%と高い傾向がみられた。

空き家の活用方法としても、「親族が住む」が24.9%と高ことから、親族が管理するといった回答が多い傾向がみられた。

空き家の活用法については、「親族が住む」が24.9%と最も高く、他人に貸し出すことについては、「抵抗はない」が29.2%、「心理的に抵抗があるが、認められる」が15.0%となっており、空き家を貸し出すことに好意的な意見が多い傾向がみられた。

空き家の問題解決策として、「空き家の解体費用に対する助成制度」が37.4%と最も高く、次いで「空き家を貸したい人と借りたい人をマッチングさせる制度」が19.6%、「空き家に関する相談窓口」が15.2%であることから、空き家対策として解体だけでなく、空き家活用に関しても多角的な制度が求められる傾向がみられた。

問55 現在お住まいの住宅についてお尋ねします。現在、持ち家を所有されている方のみお答えください。

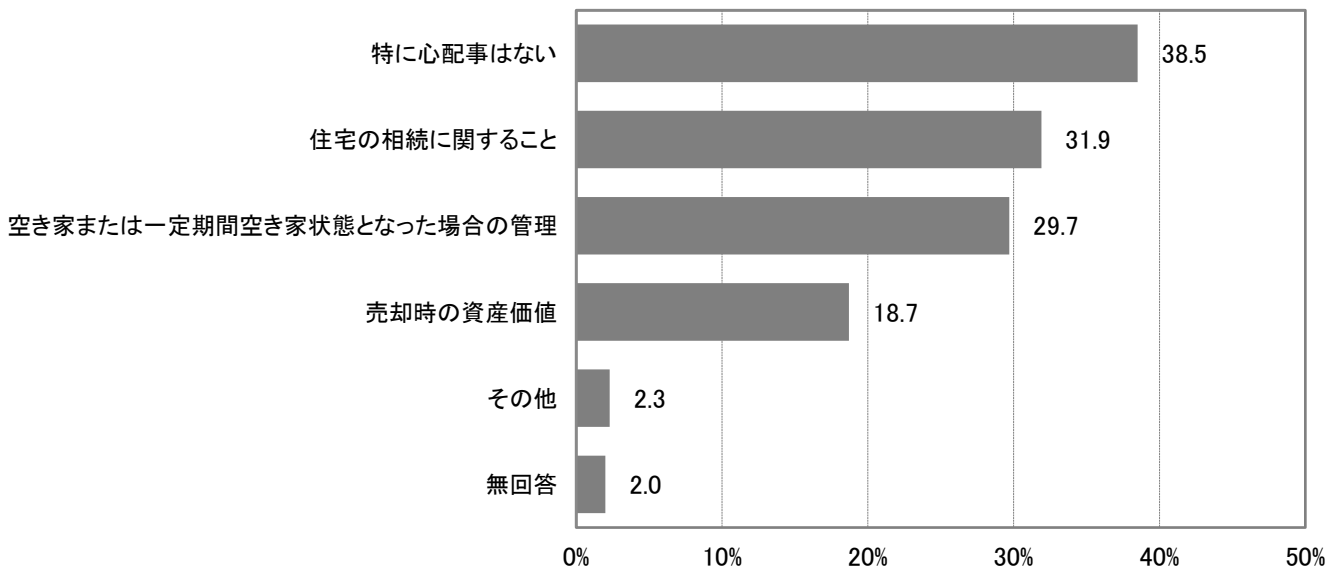
(ア)現在お住まいの住宅に関する将来の心配事について、あてはまるもの全てに○をつけてください。

住宅に関する将来の心配事は、「特に心配事はない」が38.5%と最も高く、次いで「住宅の相続に関すること」が31.9%、「空き家または一定期間空き家状態となった場合の管理」が29.7%となっている。

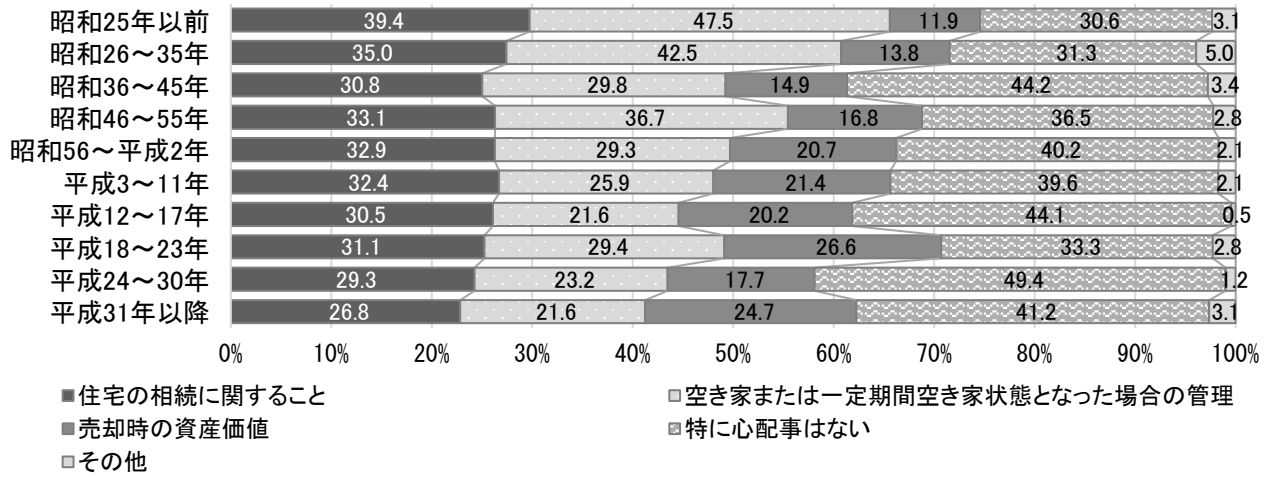
住宅築年数別でみると、「住宅の相続に関すること」、「空き家または一定期間空き家状態となった場合の管理」は昭和35年以前の住宅で約5割以上となっている。

同居人数別では、同居人数が多いほど「特に心配事はない」が高い傾向がみられる。

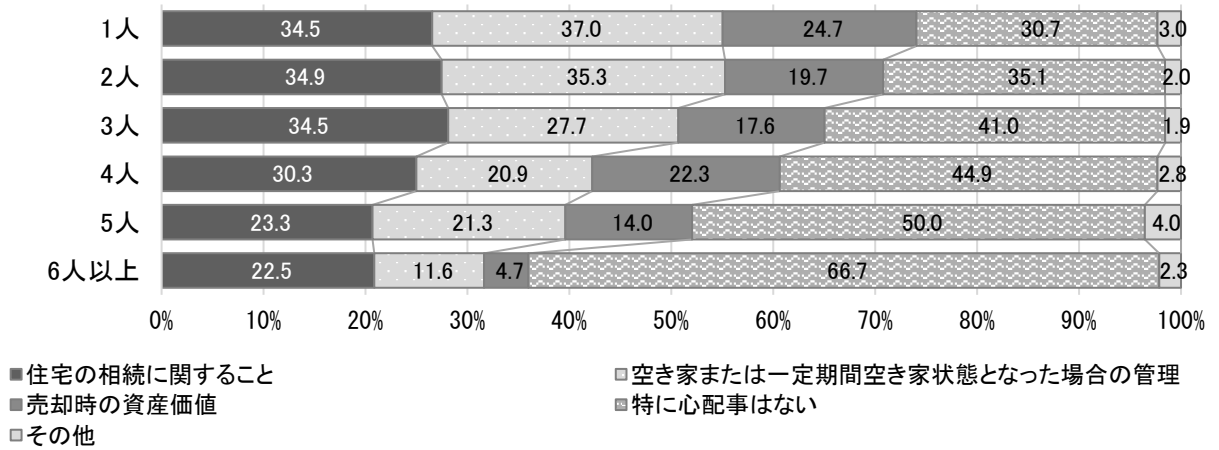
問55(ア) 現在お住まいの住宅に関する将来の心配事(複数に○) N = 2,557



住宅築年数別



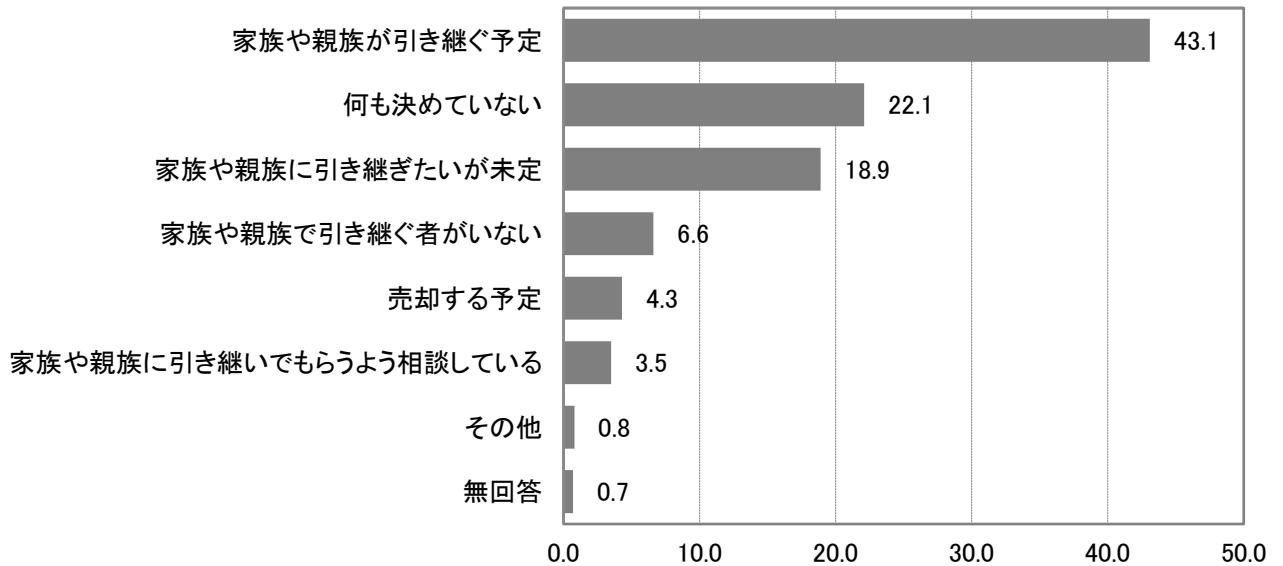
同居人数別



(イ) 現在お住まいの住宅を将来どなたが引き継ぐかについて、あてはまるもの1つに○をつけてください。

住宅の引継ぎ手は、「家族や親族が引き継ぐ予定」が43.1%と最も高く、次いで「何も決めていない」が22.1%、「家族や親族に引き継ぎたいが未定」が18.9%となっており、家族に引き継ぐ回答が多い一方、引継ぎ先が見つからない回答も多い傾向がみられた。

問55(イ) 現在の住宅を将来誰が引き継ぐか(1つ○) N = 2557

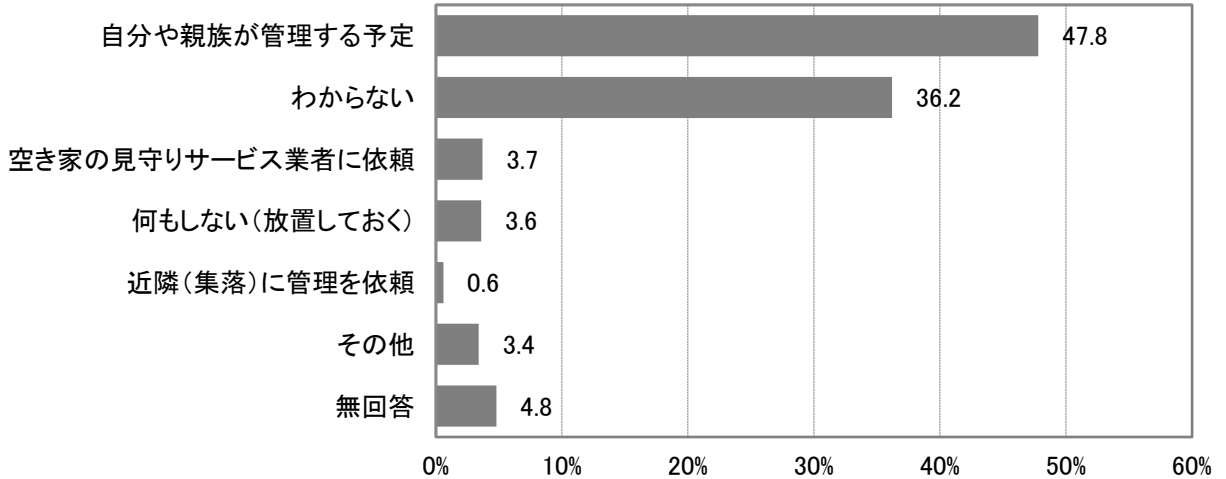


問56 現在お住まいの住宅が、今後、空き家になったと想定して、以下の問いにお答えください。全ての方がお答えください。

(ア) 空き家をどのように管理されますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

空き家をどのように管理するかについては、「自分や親族が管理する予定」が47.1%と最も高くなっている。

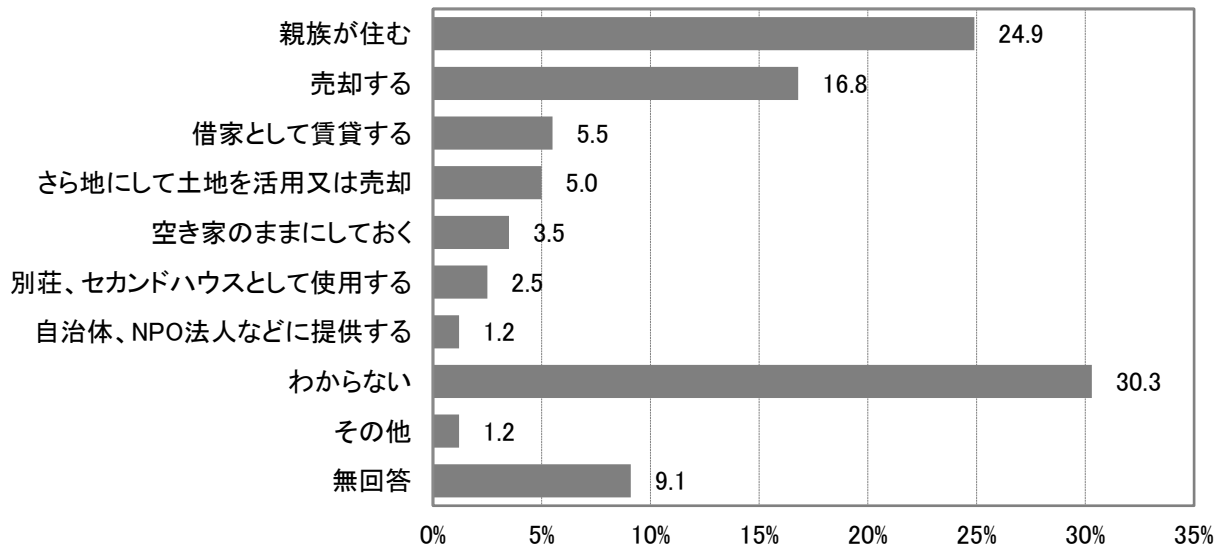
問56(ア) 空き家をどのように管理するか(N = 1,774)



(イ) 空き家をどのように活用しますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

空き家をどのように活用するかについては、「親族が住む」が24.9%と最も高く、次いで「売却する」が16.8%、「借家として賃貸する」が5.5%となっている。

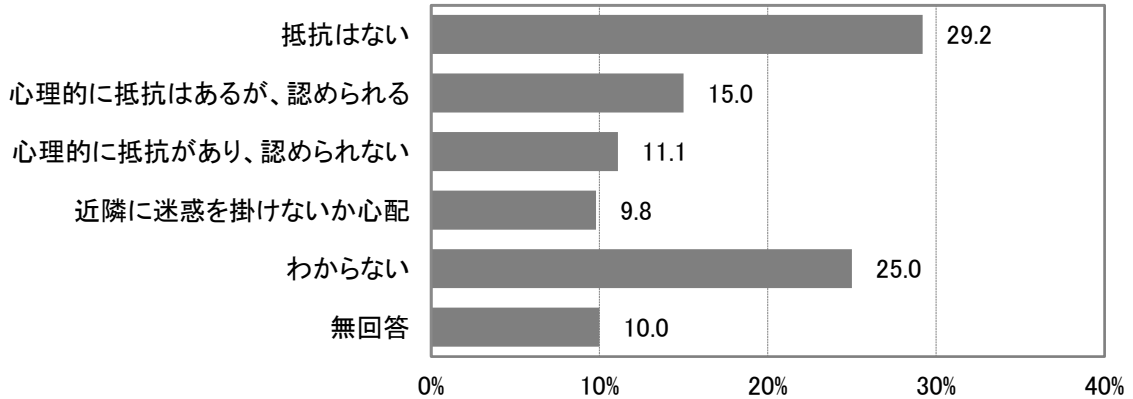
問56(イ) 空き家をどのように活用するか(1つ○)N = 2989



(ウ)空き家となった住宅を他人に貸し出すことをどう思いますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

空き家となった住宅を他人に貸し出すことについては、「抵抗はない」が 29.2%と最も高く、次いで「心理的に抵抗はあるが、認められる」が 15.0%となっていることから、空き家を貸し出すことに対して、好意的な回答が多い傾向がみられた。

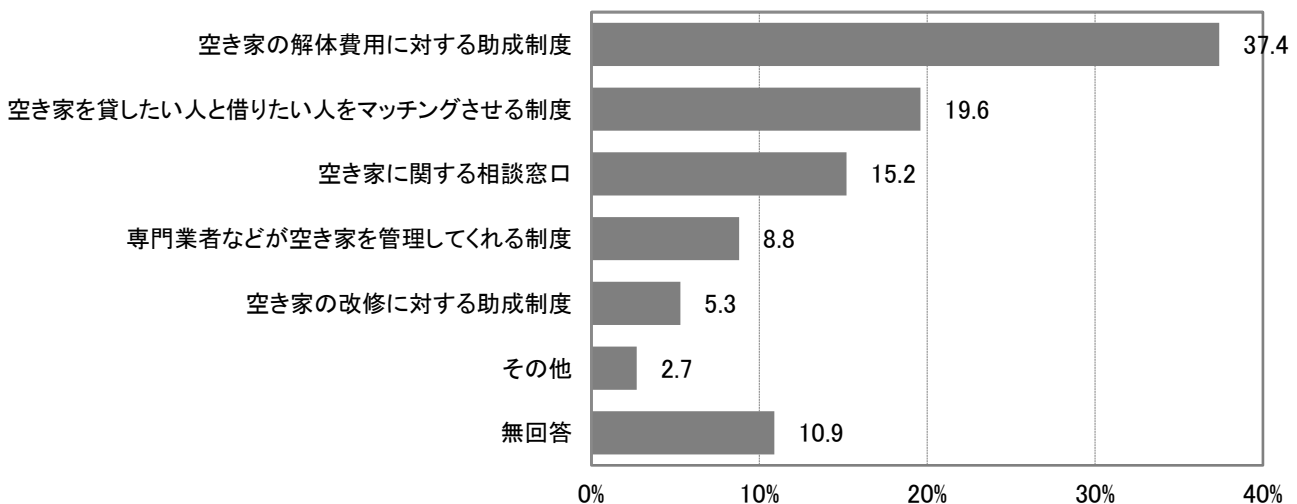
問56(ウ) 空き家となった住宅を他人に貸し出すことをどう思うか(1つ○) N = 2989



(エ)昨今、全国的に空き家が増加し、管理不十分な空き家の対策及び未利用の空き家の有効活用などが検討されています。どのような制度があれば、これらの課題解決に役立つと思いますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

空き家の問題解決策は、「空き家の解体費用に対する助成制度」が 37.4%と最も高く、次いで「空き家を貸したい人と借りたい人をマッチングさせる制度」が 19.6%、「空き家に関する相談窓口」が 15.2%となっていることから、空き家対策として、解体だけでなく空き家活用に関しても多角的な制度が求められている

問56(エ) 管理不十分な空き家の対策及び未利用の空き家の有効活用などの課題解決への制度(1つ○) N = 2989



問57 現在お住まいの住宅以外に所有する住宅についてお聞きします。

～空き家の所有について～(問 57)

空き家を「所有している」は1割弱となっており、空き家の経過年数は「10年以上」が4割強となっている。

空き家の状況は、「腐朽、破損はしていない」が36.0%あり、何かしら「破損している」は約5割となっている。

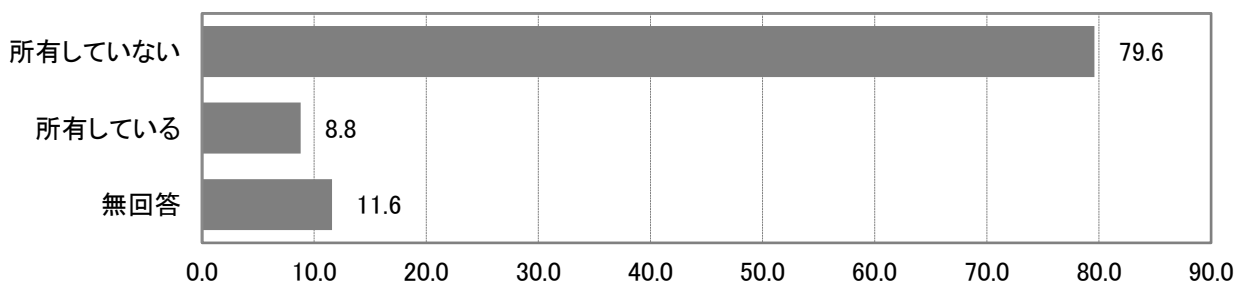
空き家の管理状況は、「自分や親族が管理」が67.0%となっており、今後の空き家の活用方法については、「空き家のままにしておく」が24.2%と最も高く、空き家のままにしておく理由について、「解体費用が用意できないから」が26.6%と最も高くなっている。

(ア)現在お住まいの住宅以外に、空き家となっている住宅を所有していますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

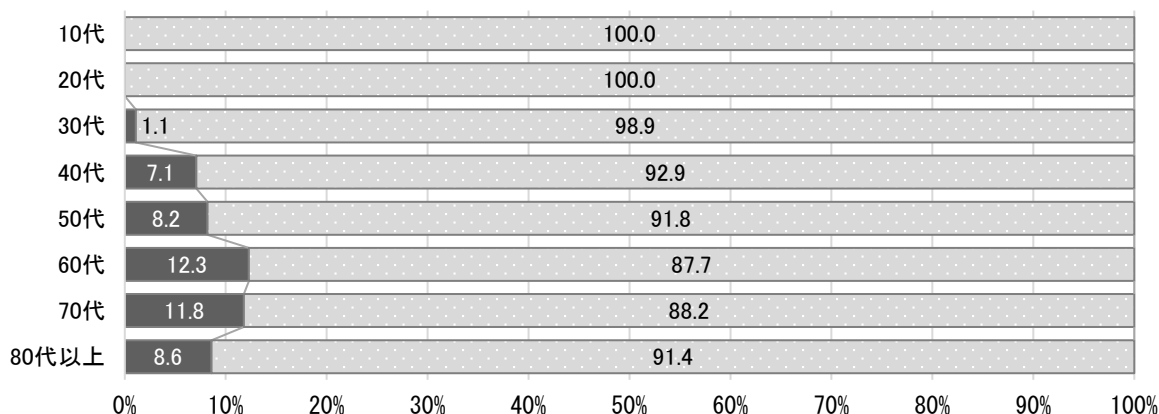
空き家の所有状況は、「所有していない」が79.6%であり、「所有している」は8.8%と1割弱となっている。

年代別でみると、40歳代以上において年齢が上がるにつれ「所有している」が高くなっていることから、相続等により空き家の所有率が増加していると考えられる。

問57(ア) 現在住んでいる住宅以外に、空き家となっている住宅を所有しているか(1つ○)N = 2989



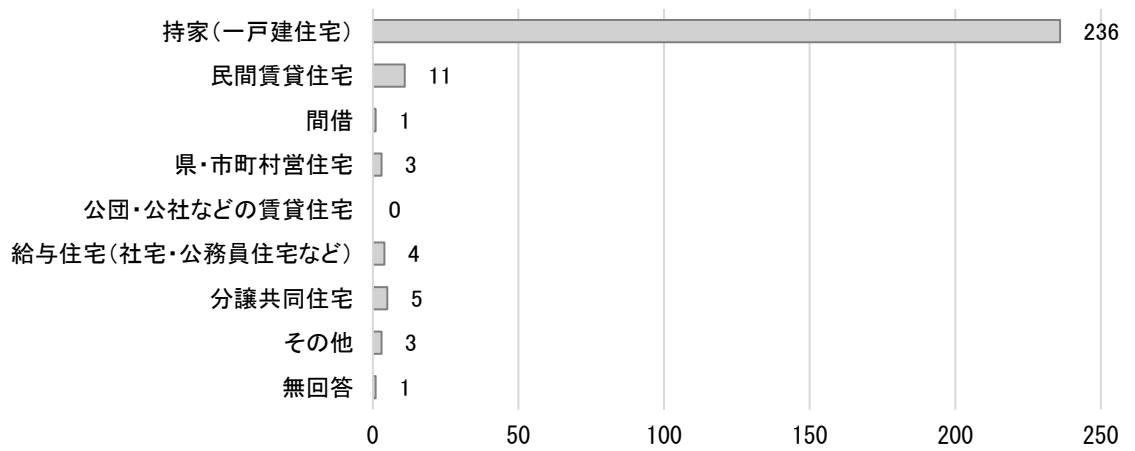
年代別



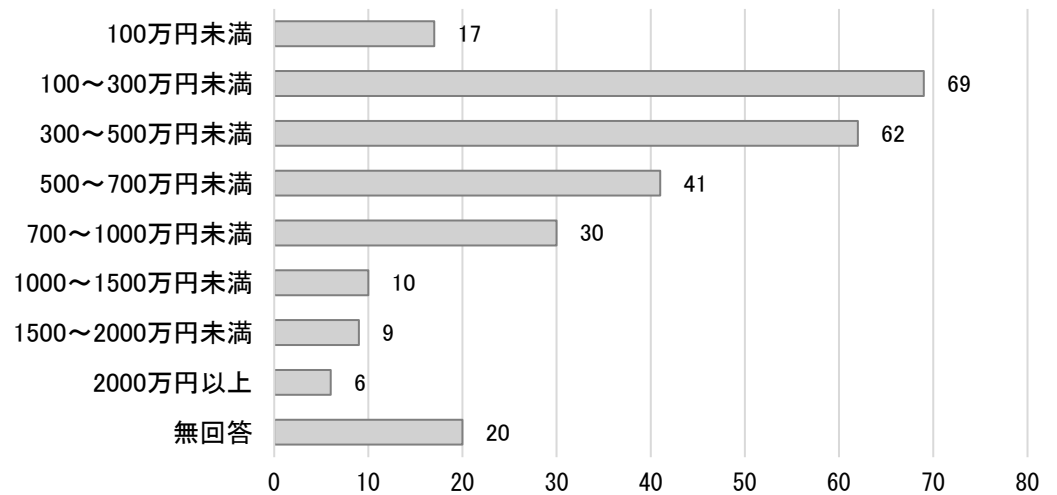
■所有している □所有していない

(参考)「所有している」回答者の属性 n=264

住居形態



世帯収入



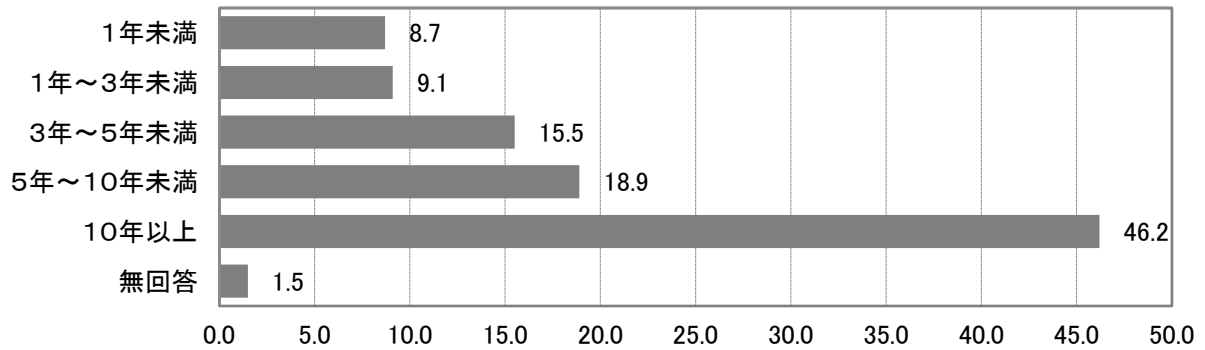
問57(ア)で「1. 所有している」に○をされた方のみ

(イ) 空き家になってからの経過年数について、あてはまるもの1つに○をつけてください。

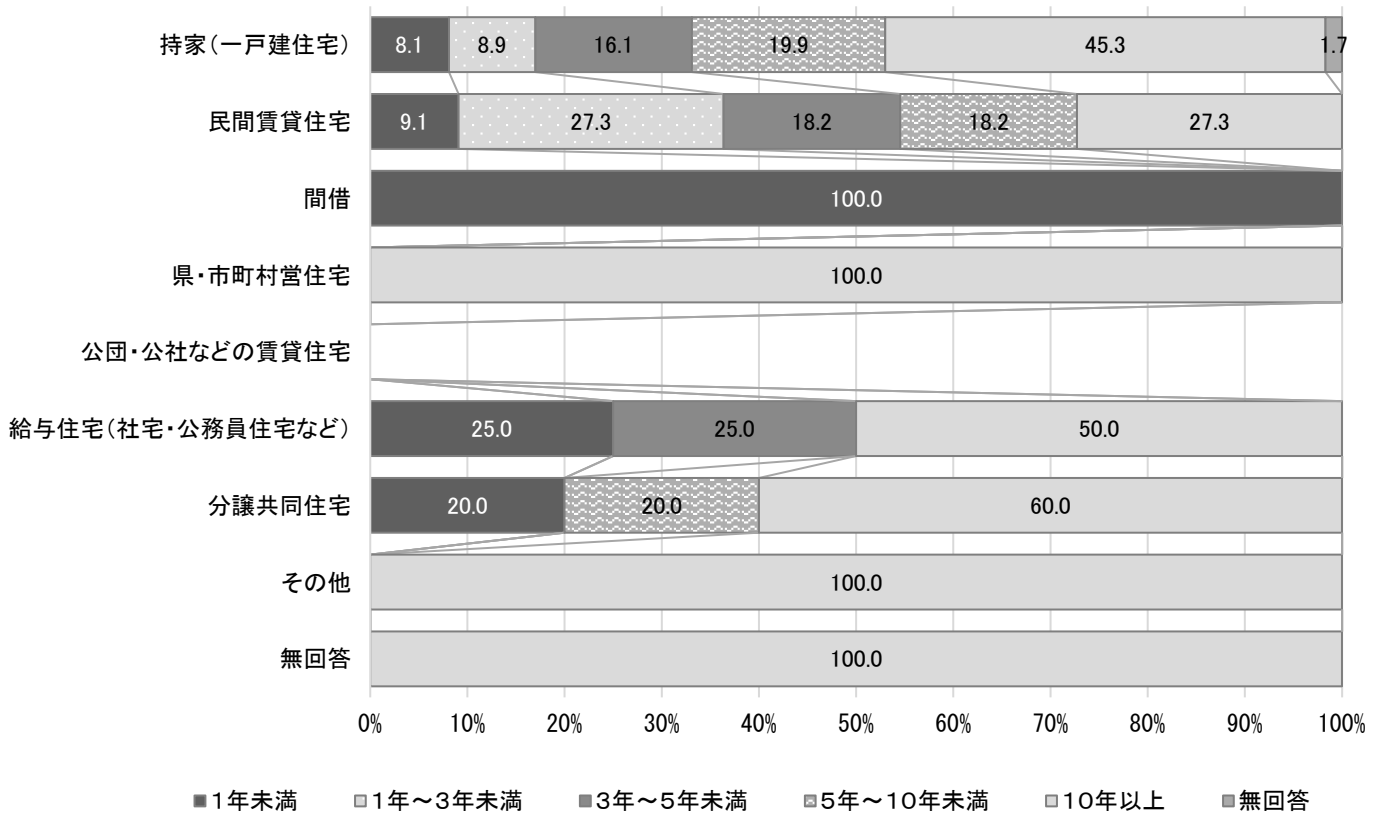
空き家の所有経過年数は、「10年以上」が46.2%と最も高く、次いで「5年～10年未満」が18.9%となっている。

住宅形態別で見ると、「持家（一戸建て住宅）」では5年以上が6割強となっていることから、空き家の処分、活用ができず、またはその方法が分からないため、所有年数が多いことが考えられる。

問57(イ) 経過年数 (N = 264)



住宅形態別

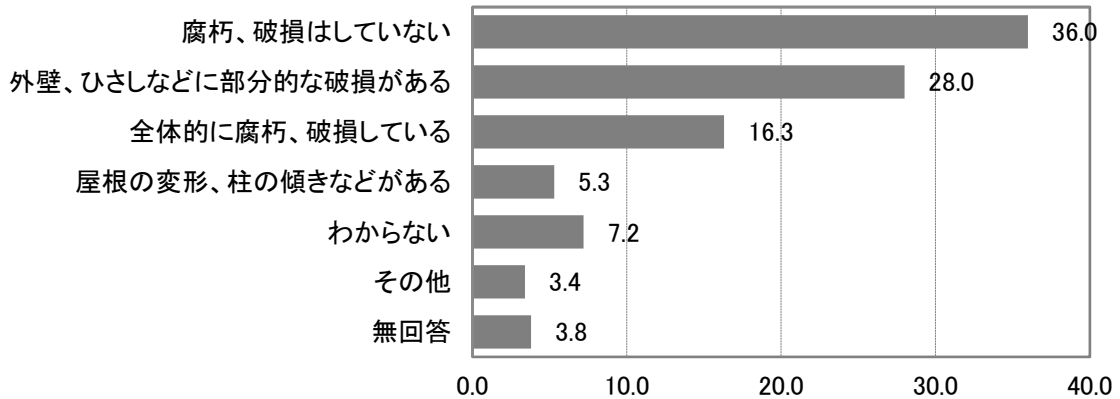


問57(ア)で「1. 所有している」に○をされた方のみ

(ウ)空き家の状態について、あてはまるもの1つに○をつけてください。

空き家の状態は、「腐朽、破損はしていない」が 36.0%と最も高いが、「外壁、ひさしなどに部分的な破損がある」が 28.0%、「全体的に腐朽、破損している」が 16.3%となっており、老朽化のため、腐朽、破損が出ている住宅も出ている一方、補修、修繕が出来ていない物件が多い傾向がみられる。

問57(ウ) 空き家の状態 (N = 264)

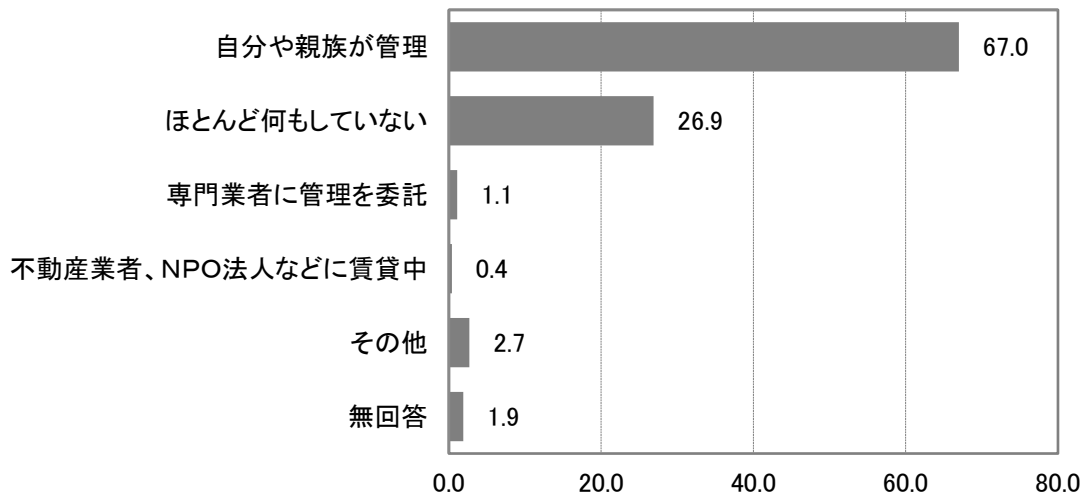


問57(ア)で「1. 所有している」に○をされた方のみ

(エ)空き家の管理状況について、あてはまるもの1つに○をつけてください。

空き家の管理状況は、「自分や親族が管理」が 67.0%と最も高く、次いで「ほとんど何もしていない」が 26.9%となっている。

問57(エ) 空き家の管理状況(1つ○) N = 264

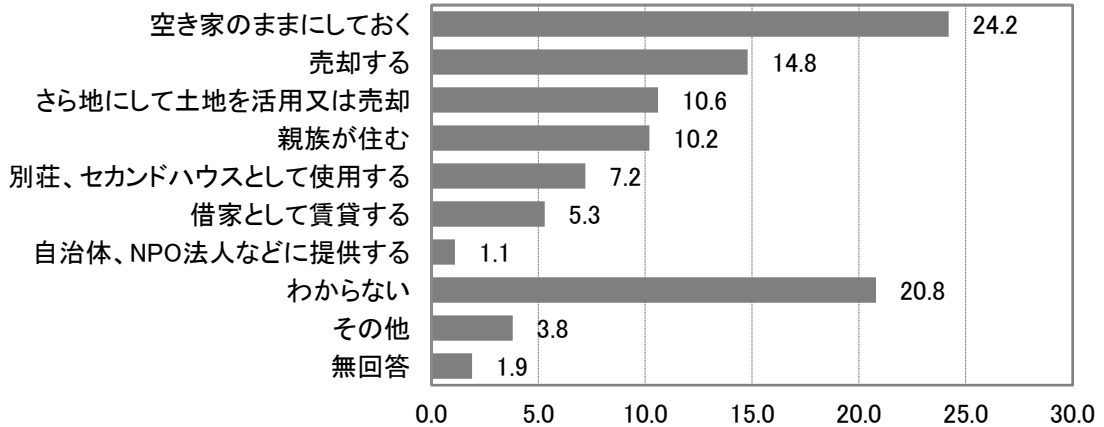


問 57(ア)で「1. 所有している」に○をされた方のみ

(オ) 空き家の今後の活用方法について、あてはまるもの1つに○をつけてください

空き家の今後の活用方法は、「空き家のままにしておく」が 24.2%と最も高く、次いで「売却する」が 14.8%、「さら地にして土地を活用又は売却」が 10.6%となっている。

問57(オ) 空き家の今後の活用(1つ○) N = 264



問 57(ア)で「1. 所有している」に○をされた方で、(オ)で、「5. 空き家のままにしておく」と回答された方のみ

(カ) その理由について、あてはまるもの1つに○をつけてください。

空き家のままにしておく理由は、「解体費用が用意できないから」が 26.6%と最も高く、次いで「物置などで使っているから」が 21.9%、「特に支障を感じていないから」が 18.8%となっている。

問57(カ) 空き家のままにしておく理由(1つ○) N = 64

